

# The 1st Asarigawa Sakura Contemporary Art Festival



主催 小樽・朝里のまちづくりの会

共催 新光南あじさい町会、(公財)北海道文化財団

後援 北海道、小樽市、小樽市教育委員会、(一社)小樽観光協会  
北海道後志総合振興局小樽建設管理部、北海道新聞小樽支社

協力 市立小樽美術館、市立小樽美術館協力会

協賛 朝里川温泉組合、小樽・朝里クラッセホテル、(株)大忠安藤建設  
(株)イコル、(株)NSニッセイ、大高酵素(株)、小樽自動車学校、(有)小原興業  
木村建築(株)、恵和工業(株)、近藤工業(株)、(医)すみえ医院、本間運輸(株)  
(株)光合金製作所、湯の花朝里殿、(有)北海道新聞中販売所



問合 小樽・朝里のまちづくりの会事務局 Tel. 0134-51-2121  
〒047-0152 小樽市新光4丁目1-16 北海道新聞中販売所内  
\* 朝里川 桜咲く 現代アート展 \*  
WEBサイト <https://art.asari.cc>

第1回 朝里川 桜咲く 現代アート展

5. 15 sat - 5. 23 sun, 2021



星田 七重  
市立小樽美術館  
主幹学芸員

阿部 典英  
美術家  
当展覧会アート  
ディレクター

中 一夫  
小樽・朝里の  
まちづくりの会  
副会長

## 第1回 朝里川 桜咲く 現代アート展 オープニング記念 鼎談会 まちづくりと現代アート／ 現代アートで地域はどう変わるのか

**桜が咲いたよ。季節を違えずに、今年は満開に 咲いたよ。  
ウグイスが、ホーホケキョと 鳴いている。  
カラスも カアカア、にぎやかだ。  
朝里川が、ゴウゴウと 音をたてて 流れていく。  
Go! Go! 前に進め! 負けるな 頑張れ! と 応援してくれる。**

朝里川の自然の中に、現代アートを展示してはどうかというアイデアが生まれたのは、2020年の夏。新型コロナウイルスの感染が拡大し、オリンピックが延期、地域のお祭りも花火大会も全部中止という、経験したことのない不安と閉塞感の中でした。

「来年の春には収束しているんじゃないか」の見通しは甘く、準備を進めながらも、心配は大きくなっていきましたが「決めた以上は覚悟を持って準備しよう、出来ることはちゃんとやろう」と励ましあって会議を重ねる中で、地域の仲間と、出展作家の皆さんとの気持ちが、ひとつになっていきました。

万全のコロナ対策と、変化に柔軟な素早い対応を念頭に、5月の準備は緊張感ある毎日となりました。開会セレモニーとワークショップの中止は、苦渋の決断でしたが、開幕直前の「緊急事態宣言」でも、開催に踏み切れたことに、そして無事に会期を終えられたことに、心から感謝いたします。

本来は開会式直後にステージで行われる予定の「記念鼎談会」は、急遽ビデオ撮影で、オンライン配信というかたちになりました。この記録誌の巻頭に収録します。

「第1回 朝里川 桜咲く 現代アート展」に関わっていただき、またご来場下さったすべての皆さんの励ましと、ご理解、ご協力、本当にありがとうございました。

星田 阿部先生には、札幌在住時代から色々な展覧会にご出品いただき、朝里に引っ越されてからも、ますます密度の濃い仕事を一緒にすることが多くなりました。

そして今日、現代アート展をこの朝里で開催されるということで、「まちづくりと現代アート／現代アートで地域はどう変わるのか」をテーマにお話を伺います。

まず、「朝里川桜咲く現代アート展」というタイトルに込められた思いを中さんからお願いします。

### 朝里のまちづくりの20年に 阿部先生の歩まれた人生と想いを加えたい

中 この朝里地区には、歴史的建造物や文化財はありませんが、本当に伸びやかな自然と、人と人の交流がきめ細かに残っています。この豊かな朝里川の自然と散策路の桜並木など、私共が20年間のまちづくり運動の中で少しずつ積み重ねてきたことをもっと市民の方や地域の多くの方に知ってほしいと思っています。

その中で、阿部典英先生という本当に素晴らしい方とお会いし、先生が人生こめて創られてきた作品の素晴らしさを先生の生き方と一緒に拝見させていただく度に、その歩んできた思いを、朝里のまちづくりに加えたいという願いが強くなり、この自然と地域の人と「現代アート」が結びついていきました。阿部先生のお力添えをいただいて、最も朝里地域らしい豊かさの象徴的事業にしたいのです。

星田 とても素晴らしいタイトルです。阿部先生の「木人シリーズ」などを美術館以外のこういう空間で拝見するのは、私は初めてのことでした。しかも5月のこの桜の時期に、まちづくり運動で植樹されたという300本の桜が咲く自然との

コラボレーションに、現代美術は本当は都会的な場所だけのものではないという考えを一層深く持てました。

現代美術って、作品は先生が一人で作りになりますが、これを展覧会にするには、ものすごいエネルギーと労力が必要なので、今回の展示作業も大変だったと思います。でもそこで、地域の方々と言葉を超えた繋がりが生まれて、後から思い出した時に、あの時は楽しかったな—って必ず記憶に残るような活動、それが今日「幕が開いた」と感じます。

地域の方々、自分ができることを、自主的にやろうと参加して、年齢を超えて仲間になっていくのは素晴らしいと思いました。

次に、阿部先生に。北海道の美術の中心的リーダーとして長く活躍された札幌を離れ、移り住まれた朝里のどこに惹かれたのか、お話しいただけますか？

### なにもないところから作り出す工夫が 創作活動の原点となった少年時代

阿部 僕の生まれは札幌なんですけども、生まれた年に第二次世界対戦が始まりました。1939年です。で、終戦になった時が、ちょうど6歳でした。父が四十歳になって2回目の招集でまた戦地に行きました。その時に子供が6人おり、札幌では生活できないってということで曾祖父が開拓した島牧に疎開しました。そこは目の前が海、後ろは山ということで、僕が創造する、ものを作るということの、一番の原点になりました。

どうしてかと言うと、全て何もない、失礼な言い方かもしれませんが、遊ぶものなんか一つもなく、全部自然の、例えば貝殻だとか流木だとか、ギリギリヤコオロギだとか

アリとかの昆虫、そういうものしか遊ぶ相手がいなかったのです。そして遊ぶにしても、全て自分で手作りしないと出来ませんでした。一番印象に残ってるのは、竹馬作ってちょこちょこ歩いたり、ホタテの貝に穴開けて、そこに綿糸を通して下駄代わりに履いた遊びだとか、カニの爪でおもちゃを作ったり。生活用品も乏しかったので、ホッキ貝だとか、ホタテの貝殻でしゃもじを作ったり、スプーンみたいなものを作ったりして生活にも役立てておりました。父がいなかったってことは、貧乏しましてですね、身近なものから物を作らないと、遊びもできなかつたし生活に潤いがなかった。

## 原風景・島牧と、朝里の豊かな自然に共通するもの

**阿部** こういう少年時代が、今この朝里に引越したことに繋がります。なぜかと言うと私は、海や山が無いとダメなんです。今住んでいる朝里川温泉は、少し車で走ったら朝里の海岸がありますし、家の窓から朝里川やスキー場が見えます。少年時代育った環境と非常に似てるということです。家の裏には朝里川が流れておりまして、6月1日からヤマベが解禁、それを釣るのも私の趣味。こんないいところはないと言うのが大きな要因ですね。

それとなんといっても、この朝里のまちづくりの会の人間的な温かさ。これにはもう本当に感謝申し上げて、今回のこの企画に参加させていただきました。

## 阿部先生が朝里を選んでくれたこと そこに応えたい、一緒にやりたいという気持ち

**星田** 中さんとの最初の顔合わせで忘れられないのが「阿部先生は、ご自身の人生の本当に最後のステージとして、朝里を選んで来てくださったんだ。だからその気持ちを受け止めて、我々は阿部先生の奇想天外な発想に、応えてあげて一緒にやっていきたいんだ」と、中さんがおっしゃったことに、すごくジーンと来て、そうだって思ったんですね。

本当に阿部先生のような方が、札幌じゃなくて、わざわざ小樽に、こっちが絶対来てって引っ張ってきたんじゃないかって、先生の方から朝里に来てくださったっていうことに応えたい。多分小樽の中で、一番アグレッシブに動く、そのまちづくりの方が、そこに気がついてくれたことが、ものすごく嬉しく

て、私も市の美術館員として一緒にやっていきたいと思いました。

今回コロナ禍で、こんな形のスタートになっちゃって、札幌からの重要なお客様が誰も来られなくてすごく残念ですけど、これを絶対継続させて、「桜咲く現代アート展」って言えば「ああ、阿部先生の、朝里でやってる野外イベント」って、広く知られるようになって欲しいと思ったんですね。

すみません、少し話が飛びましたけれども、阿部先生は朝里でこれから何をしていきたいとお考えですか？

## 温めていた「朝里川芸術村構想」への一歩

**阿部** 実はですね、朝里川温泉の坂を登っていくと豊倉小学校がありまして、それが閉校になりました。その閉校になった校舎が、特に体育館が素晴らしいんですね、天井が高くコンクリートで。

そこをなんとか美術というか芸術文化の拠点にできないかなと考えていました。そこに展覧会に参加していただいた美術家の方もいらっしゃいますから、みんなの作品をそこに持ち寄ったり、今一番困ってるのは、收藏っていうことが一番問題になっているんですね。そこを拠点に集めて、定期的に展示替えするとか、もちろん私の作品も含めてですね、なんとかそういうような拠点に作れないだろうかと「朝里川芸術村構想」ということを考えていました。行政の方に相談にも行きましたけども、あそこは避難場所になったり、いろんな条件があって、非常に難しいというお話でした。

そんなことを考えてる時に、中さんからこのような展覧会を、ながら公園でしたいという話を受けました。あのコロナでみんな閉じ込められたと言うか、厳しい条件の中で生活してる時期で、広々とした素晴らしい所で、アート展ができるというお話は、嬉しかったです。一日の生活で苦しんでいらっしゃる方に、少しでもそういう人にも繋がりができて、心の豊かさや安らぎが出来たら、こんな嬉しいことはないと思ってやっています。

**星田** 関連事業として計画されていた中学生を対象にしたワークショップは、今回は実施出来ない？

**中** そうですね、出来なくなりました。

## 手仕事を伝えるワークショップの重要性

**星田** そうなんです。阿部先生は物の無い時代に全て手作りでやってきたように、拾った貝や鳥の羽など、ありあわせのもので何かを作る「ブリコラージュ」という手法での作品も制作しています。そういうスタイルって、基本的には私は「手仕事」で、重要だって考えてまして。そういう手仕事を伝えていただくようなワークショップ、次回は是非実現できるといいですね。阿部先生は色々なご本も出しておられて「親子で楽しむデザイン技法」という本ですが、以前、朝里中学校の生徒さんたちにも来ていただいて、ワークショップを寿原邸で実施したこともありました。いろいろなプログラムも考えられるので、地域の方々にそういったワークショップを提供するのも可能だと思います。

## コロナ禍にあって、何をもってこの展覧会の成功と言えるのか？

**星田** 次の話題なんですけれども、今このコロナ禍で、去年から文化芸術に関する活動をされてる方が、本当に喘いでいて、苦しんでいて、それでもわずかな力を振り絞って毎日制作しています。今日出品のアーティストの方々も。

こういう展覧会を私たちが開催する時に目指す成功には、入館者数が何人とか、いくら達成したかっていうことを求められるのですが、中さんと阿部先生は、何をもってこの展覧会が成功したと言えるとお考えでしょう？それと、このコロナという状況下での文化芸術面での苦しい状況についてのお考えも。

## 精神的価値をゆっくりと高めたい

**中** 僕らとするともうすでに、今日この場で成功してる喜びでいっぱいです。何より我々の、街をこういう風にしたいなっていうハートの部分、それが阿部先生の作品や、阿部先生の生き様とぴったりしていると感じました。

今回は、阿部先生を担がせて頂いて、この朝里地域の価値を上げる大きなうねりにできないかと。まちづくりのスピリットやそこから生み出てる面白さ、それを見てもらって、体験してもらって、小樽の朝里川周辺の地域は、どうやら精神的価値が高そうだと、と云うような、ゆっくりとした、ゆったりとした盛り上がりを作っていきたい。そのために今回はすごく効果的であったと思っています。

**星田** 阿部先生、いかがですか？

**阿部** はい。なんて言ってもですね、今子供の声が聞こえます。また昨日、一昨日と、飾り付けしている時に、ウグイスがホーホケキョと鳴いて、カラスがあそこの木にとまって、カァカァ鳴いて、それから朝里川の、この川が流れてる音もゴウゴウってますが「がんばれがんばれ、Go! Go! 前に行けよ」って言うように何か応援してくれるなど思いながら作業していました。



## コロナ禍であっても芸術文化をあきらめない その精神が朝里のまちづくりにはある

**阿部** 観客の数ですけれども、例えばコロナがなかったとしても、子供さん方が見に来て、一人でも「僕はこんな作品作ってみたい」っていうことを僕に声かけてくれたら、それで大満足です。

そのぐらい、やはり今、美術とか芸術文化に対してはなかなか厳しい時代です。お金が、国自体がないからということで、一番最初に抑えられるのが、芸術文化なんです。フランスのパリなどは、予算が厳しいけれども、芸術文化に課すことは絶対にしないという信念のもとで街づくりをやっているんですね。経済は浮き沈みが激しいですが、一度造った芸術文化は不滅です。

そんなことも含めて、このコロナで本当に厳しい時代に生きながら、なんとかならないの、どうしてくれるのって云う時に、こういう開放感があって、鳥まで応援してくれるような展覧会にしてくれたということが、もう涙が出るくらい嬉しいです。まちづくりの会の佐々木先生も高野さんも、本当にもう寝る時間がないくらいに、いろんなことをして下さって、なおかつこの地域の皆様も、飾り付けも、いろんなゴミ拾いや草刈りもして、この展示会場をつくってくれたという、この熱い思いはもう、涙が出るほどに嬉しいです。

## お金がなくても、つらくても、絶望することはない

**星田** 今日はまず喜びたいと思います、私も。お金がない、何もできない、建物はボロボロ・・・うちの美術館なんですけど、もう絶望感でいっぱい。でも、今こうやって、円形に皆さんが並んでいらっしゃるのを見て「お金が無いなら、まず広場に杭をたてよう。そして杭のまわりに、杭を囲んで、中で踊ったり歌ったりしよう」っていう、それをちょっと思い出したんですね。だからそこから始めればいいんだなーってことで、何も絶望することはないって思って。

今日、出会わせていただいたことを、中さんに感謝しています。それと私も裏方なので、こういう事業を作っていくとき、裏方の作業をされる方の、助成金申請とか、すごく大変だったろうと想像します。そういう事は本当に、また別な才能が必要なことなので、それらが合致してはじめて、このように大きな催しができると思っておりますので、継続して、この地域を代表する、小樽を代表するものになってほしいなと思います。

## 現代アートと地域のかかわりで生まれる夢

**星田** ちょっと繰り返しになりますけれども、現代アートで地域はどう変わるのかというその最初の問いかけに対して、中さんの夢を語っていただいて、阿部先生にも夢を語っていただいて、トークを締めさせていただければと思います。

## 朝里を愛し、人を愛する心の豊かさ

**中** 星田さんに褒めていただいて感激してますけれども、それは朝里のまち全体のパワーが、この20年かけて上がって来ているということです。それから人的ネットワークと心の持ち方が非常に素直になって来ているんじゃないかと思えます。

先程、先生の作品の搬入が重たかったでしょって、おっしゃられましたけど実はみんな楽しくて、ちょっと重いのは現実問題ですけど、和気あいあいと楽しく組みたてて、先生と「こうだよ、そだよ」って楽しかったんですね。その作業もね。精一杯このイベントを背負って立ってやってくれているスタッフが何人もいて、そういったマンパワーが、この20年間この地域の中で生まれてきたことが、かけがえのない財産だと思うのです。

そして繰り返しになりますけど、阿部先生の生き方と我々のまちづくりのスピリットが、ほぼ合致しているという事です。阿部先生は朝里に移ってきて7年ですけども、もう朝里の町の先住民よりも地域を愛してるって事です。我々と接点を持ってまだ一年二年というところですが、我々をすっぽり受け入れ、町を愛している人を愛してくれてる。そういう懐の深い方だから僕らは是非先生と一緒に組ませていただきたいし、それがこの街の魅力の一番の核の部分になる。

僕らの会は、細々としてますから、そんなに派手には展開できませんけれど、じっくりとあきらめないで進めて行けたら、きっと地域の精神的価値が認められる頃、豊かさを増して朝里は輝き出すのではないかな。そんな期待を持ちながら、もう少し皆さんに頑張ってもらおうかなと思ってるところです。



## 自然と対話しながら手技で創造する喜びを伝えたい

**阿部** 僕も正直言って自分の人生の最終章といえる年齢になりました。その時に、ここを選んだってということ、なおかつ、今回のこの「ながら公園」で現代アートの作品を取り合わせにした、展示を行えたことだと思うんです。

自分の心の表現方法として「手技」でみんなやっています。今回の展示会は、コンピューターでなにかボタンを2、3件押すと、ばあーって画像が出てくるのとは全く違った「手技」の世界です。私たちの表現はそういう意味です。

子供たちには、ワークショップが残念ながらこのコロナで出来なかったんですけども、僕も朝里に引っ越してきてすぐに、流木だとか石だとか、そういう素材を見つけてきて作品を作ったものが何点かあります。次回にそういうものを展示したいなと思っております。

そういう意味で自然とすぐ対話できるそのことが、我々が生活する中で一番大切なことだと思います。例えばあその舞台の前に飾ったものも、本来だったら焚付かなんかにする小枝ですけどもそれを生かしてですね、昨日、この地域の皆様全部並べて、この桜咲く現代アート展の彩りを作ってくれたってということにも結びついて、そういう良いアイデアも自然の中にはたくさんあります。

## 子供たち、そして未来を担う若い表現者たちが思う存分に活躍できる場所としての「地域」

**阿部** 僕、葉っぱで昆虫作ったり、魚作ったりするのがとても面白くて、春の葉っぱと夏の葉っぱ、秋の葉っぱ、全然違うんですね。それをうまく組み合わせる、いろんな表現がで

きるって事は、先程、星田さんにも言っておきました。子供たちも楽しんでやってた姿がちゃんと写真や、それから資料として残っておりますので、ぜひ、来年は実現したい。子供さん方と、未来を背負う方々と一緒に遊んで、その中から本当の意味で、生きて表現するっていうことを共に勉強したいと考えてます。

それと、今、話題になっております、北海製罐第3倉庫の件ですが、先日のセミナーで、市民からのアンケートに、展示スペース・文化施設としての利用という提案が一番多くありました。小樽市民の考えは、見事に現状を見ています。私もそう考えます。今あります市立小樽美術館は、あまりにも小さく、美術展をやるにしても狭すぎます。現代美術を志向している若者は、より実験的な作品や、他の分野の人々とのコラボレーション等の総合的な展示空間を望んでいます。その点で適切な空間がある3号倉庫は最適だと思います。是非その様な方向に進みますことを熱望する一人です。

**星田** この展示会はアーティストと関わってくれた全ての人たちの、今、共に生きてたってその一瞬のドキュメントってことです。ありがとうございます。

**阿部・中** どうもありがとうございました。

2021年5月15日  
屋外展示会場・ながら公園にて収録  
鼎談会の動画は左のQRコードから  
YOUTUBEにてご覧いただけます。  
<https://youtu.be/XKIOIrwOHCQ>



◀ながら公園での会場設営。左(P.6)は阿部先生のアトリエから搬入された作品の梱包を解く会員。右(P.7)はステージ周囲に小枝を敷き詰める作業の様子。中央にはノコギリを手に作業する阿部先生。右手前が屋外作業リーダーの佐々木秩さん。

## 第1回 朝里川 桜咲く 現代アート展 主な作業スケジュールと開催実績

- 2020年**
- 8月8日 「阿部典英氏を囲んで」開催
  - 9月2日 会場予定地事前確認
  - 9月5日 第1回実行委員会
  - 9月10日 まちづくりの会定例会にて実施計画原案承認
  - 10月24日 新光南会館とながら公園での打ち合わせ
  - 10月31日 アート展事務局会議
  - 12月1日 北海道文化財団訪問
  - 12月23日 アート展事務局会議・まちづくりの会定例会
- 2021年**
- 1月31日 北海道文化財団共催申請締め切り
  - 3月10日 朝里のまちづくりの会定期総会
  - 3月19日 アート展事務局会議(印刷物編集会議)
  - 3月20日 アート展特設WEBサイト公開
  - 3月22日 阿部出展作品確認
  - 3月23日 協賛企業訪問・集金
  - 3月26日 後志総合振興局小樽建設管理部後援要請
  - 3月27日 屋内展示場所の下見と出典作家会議
  - 3月30日 第2回実行委員会(新光南あじさい町会合同)
  - 3月31日 北海道新聞小樽支社後援要請と取材
  - 4月14日 ポスター・チラシ発送作業
  - 4月21日 第3回実行委員会(新光南あじさい町会合同)
  - 4月27日 会場近隣への挨拶回り
  - 4月29日 ドローン撮影下見と打ち合わせ
  - 5月6日 アート展事務局会議
  - 5月7日 アート展受付スタッフ会議・鼎談打ち合わせ
  - 5月12日 事務局会議(開会セレモニー・ワークショップの中止決定、受付・警備スタッフ編成変更)  
ドローン下見、移動ステージ搬入と組み立て
  - 5月13日 屋内・屋外会場設営(作品搬入)
  - 5月14日 屋内・屋外会場設営(看板・キャプション等設置)  
16日からの緊急事態宣言が発表
  - 5月15日 午前10時より開幕
  - 5月23日 午後5時にて閉幕
  - ★屋内会場の来場者総数 737名  
(朝里地区 357名、小樽市内 289名、小樽市外 84名)
  - 5月24日 会場撤収、後片付け、作品返却

# Artist Profile & Art Works

午前4時の静かで蒼い雨を想い、  
生まれ育った小樽で見ていた  
美しい鉛色を夢に見た。  
雨音か無音か  
冷たい雨か暖かい雨か  
降っているのか降っていたのか  
いつ止むのか  
是非、それぞれの「Ame」を。

## 高野 理栄子

Takano Rieko

小樽市生まれ。小樽美術協会会員、小樽市展委員  
北海道版画協会会員、道展会員、国画会版画部準会員

- 2014 国展版画部門新人賞受賞
- 2015 国展版画部門国画賞受賞
- 2016 「北海道・いまを生きるアーティストたちとともにいること  
ともにあること」北海道立近代美術館(札幌)
- 2018 高野理栄子 北海道文化財団 企画展(札幌)  
日本韓国中国アジア国際交流展(韓国/光州)  
国展版画部準会員奨励賞受賞



写真上 Ame (2019 / 2020) コラグラフ版画 39 x 28 cm ※同じサイズの作品は、6点出品。同じ元版に変化をつけた製作年の異なるものを2タイプずつ、3種類展示した。

参考写真下 Ame (2021) コラグラフ版画 7 x 11 cm ※小さい縦型の新作2点出品。  
会場に展示されたものは、このページに掲載の作品とは異なる。



## 末永 正子

Suenaga Masako

小樽市生まれ  
札幌大谷短期大学油彩専攻科卒業  
北海道美術協会会員  
小樽美術協会会員  
日本美術家連盟会員

- 1976 道展北海道新聞社賞受賞
- 1998 道展協会賞受賞
- 2000 道展会友賞受賞
- 2016 阿部典英と北海道作家展  
(黒龍江省美術館/中国)
- 2017 小樽・美術家の現在シリーズ  
末永正子展(市立小樽美術館)
- 2019 小樽・美術家の現在シリーズ  
テーマ展 風土(市立小樽美術館)  
CROSSROADS(スウェーデン)  
個展(札幌・ギャラリーレタラ)



白と黒の景 (2017) 油絵 163 x 163 cm

北海道には色とりどりの四季があります。  
ここ小樽の四季は特にはっきりと感じられ  
それが私に、至福の時間をもたらしてくれ  
冬には静かな白が、鳥のさえずりや  
冷たい風をも包み込む、大らかさがあり、  
春を想像させる淡いサクラ色は  
希望と自由な時間を感じさせ、  
優しい雰囲気を感じさせます。  
小樽を象徴する海の青は、  
短い北の夏にも関わらず強い存在感を示し、  
そして天狗山の木々の葉は、日々、山の色を  
変えながら、最終的には完ぺきなグラデーション  
となり、魅力的な秋を演出します。  
この一刻、一刻と移りゆく季節の一瞬に  
想像をめぐらし、  
色と形、点と線を組み合わせ  
自由に豊かな作品づくりを目指しています。



TOKi (2018) 油絵 118 x 92 cm



TOKi (2018) 油絵 118 x 92 cm




### アート展に参加して

今回の「第1回朝里川桜咲く現代アート展」の開催について、昨年より続くコロナ禍での開催と言うこともあり、普段行われるアート展以上にスタッフはじめ関わっていただいた皆さまのご苦労があったと思います。まずはお礼申し上げます。

その中でも季節柄、桜の美しい朝里川の遊歩道やながら公園での展示ならびに屋内の展示に多くの方々にお越しいただけたということは、少しでも昨今の自粛疲れを癒やす一助になれたのではと大変うれしく思います。

今後もこういった展示が多く行われ、来場いただける皆さまに各作家様の作品に触れていただける機会があると良いな、と思います。この度は本当にありがとうございました。

高野 理栄子 ▶  
アーティストトーク動画



### アート展に参加して


小樽にはまだまだ知らない魅力的でステキな所が沢山あることを再認識する事が出来ました。

巷の巨匠の方々の作品に触れ、みなさまのこれからの活躍と、多くの新しい巷の巨匠が誕生する予感を嬉しく思います。

そして朝里川地域のみなさまの行動力が、他の小樽の地域に波紋のように広がり、一人でも多くの方が小樽美術館に足を運ばれる事を願います。

微力ですがアート展に参加しスタッフや地域のみなさまと交流が出来た事が勉強の時間でした。

末永 正子 ◀  
アーティストトーク動画





「大気、霧、もや、  
ガラスに付いた水滴、  
半透明の紙、雲母片」  
そういうもの越しに見える  
光や色が好きです。  
何かに見えたり何にも見えなかったり。  
美術作品や自然と向き合うときに  
得られるのは「自由」。  
だから観る人も、  
作者のことは考えるべからず。  
何を思おうと、好きでも嫌いで、  
自分が答えを握ってる。  
自由っていいな。

森 万喜子  
Mori Makiko

奈井江町生まれ。北海道教育大学札幌校特別教員養成課程(美術)入学、油彩専攻。中学校美術科教員として千葉市で教え、1991年小樽に戻り、桜町中、西陵中勤務。2018年より小樽市立朝里中学校校長

- 1982 個展(札幌市民ギャラリー)、小樽市展国際ソープチミスト賞、道展入選
- 2008 個展(Temporary Space/札幌)(オーセントホテル、櫻俱樂部/小樽)
- 2010, 2012 かなた展 I, II (市立小樽美術館市民ギャラリー)
- 2019 小樽・美術家の現在シリーズ テーマ展 風土(市立小樽美術館)



Air (2019-2021)  
アクリルグワッシュ  
オイル、パステル  
10 x 7.5 cm  
※同サイズ5点



Air (2019) アクリルグワッシュ 90 x 30 cm ※同サイズ2点



Air (2010) 油彩 90 x 90 cm ※同サイズ2点



森 万喜子  
アーティスト  
トーク動画 ▼



沈黙 (1998)  
木、黒鉛 16 x 16 x 25 cm



萌芽 (1975頃)  
真鍮 13 x 10 x 30 cm



阿部典英アラカルト作品



コート・ダジュールのさざ波 (1978) 26 x 69.5 x 54.5 cm  
金属(パネ)、銅メッキ、ハードクロムメッキ



囚われたイシ (1978頃)  
ステンレス、銅、石 27 x 18 x 26 cm



悲しみ (2015頃)  
古木、鉄 23 x 30 x 50 cm



向天の塔 20 x 20 x 50 cm  
(2000頃) ステンレス、合成塗料



イシの塔 (1978頃)  
銅、石 15 x 14 x 40 cm



ダンスをしましよ 15 x 18 x 43 cm  
(1978頃) 鉄、銅、ハードクロムメッキ





MOKKOKUJIN (1991)  
木、黒鉛、メディウム、塗料  
130 x 224 x 197 cm

朝里川桜咲く現代アート展  
アートディレクター

阿部 典英  
Abe Ten-ai



SAN・SUNの踊り (1984) 2体  
ナラ、シロコ、クルミ、黒鉛、ラッカー、他 507 x 417 x 178 cm



MOKUCHUJIN (1986)  
シナ、ヤマグワ、黒鉛、メディウム、塗料  
270 x 170 x 140 cm



MOKUSEIJIN (1991)  
木、黒鉛、メディウム、塗料  
110 x 150 x 240 cm

1939年札幌市生まれ。北海道札幌東高等学校で、前衛的な書の表現を模索、独学で美術を始める。1967年砂澤ビッキと阿寒に同行し、1989年死去するまで親交を深める。

- 2000 札幌芸術賞
- 2011 北海道文化賞受賞
- 2012 地域文化功労者文部科学大臣表彰受賞
- 2003 阿部典英展－豊穰なる立体 (札幌芸術の森美術館)
- 2009 阿部典英展 Galerie SATELLITE (フランス パリ)
- 2011 ハルカヤマ芸術要塞 (小樽)
- 2012 阿部典英のすべて－工作少年イメージの深海をゆく (北海道立近代美術館)
- 心の原風景－海への回帰 阿部典英展 (市立小樽美術館)
- 2016 阿部典英展－ネエ ダンナサンあるいは 月・影・漂 (黒龍江省美術館/中国)
- 2019 小樽・美術家の現在シリーズ テーマ展 風土 (市立小樽美術館)



木花の柱 (2021)  
木、ステンレス  
100 x 100 x 250 cm



◀ 阿部 典英  
アーティストトーク  
動画配信URL



KU・MA・SA・Nにあるいは KO・MI・CHIへ  
(1984) 70 x 70 x 180 cm  
半硬質ウレタン、竹、針金、アクリリック

この度の展覧会に寄せて

絵画や彫刻などの作品は、自ら言葉を発しません。観る人が、どのように見ても、どのように感じても、まったく自由な世界です。100人の鑑賞者がいたら、100通りの見方や感じ方があるでしょう。また、同じ作品を観ても、その時の体調や気分、また年齢によっても、異なる感想が生まれることもあります。

好き嫌いはもちろん、綺麗だな、優しいな、怖いな、暗いな、・・・時には、まったく分からないな、という時もあるかもしれません。作品の鑑賞は、どんな見方をしても、感じ方をしても、全てが正解です。自分の感じたままが、答えなのだと思います。

この度の展覧会の出品作品について、ご自分のお感じになったことを、他の方とお話ししてみると、もしかしたら面白い発見に結びつくかもしれません。是非ともお試しいただきたい思います。

作品は、観てくださる方がいて初めて意味を持ちます。今回の作品展示を全面的に運営していただきました「小樽・朝里のまちづくりの会」の永井邦雄会長、佐々木秩氏、高野のみ氏、「新光南あじさい町会」の中一夫会長、そして、関係していただきました全ての皆様に 心から感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございました。



モシカシタラ (1980) 340 x 120 x 50 cm 半硬質ウレタン、合成樹脂 ※サイズ可変





## 上嶋 秀俊

Ueshima Hidetoshi

- 1966 小樽市生まれ
- 1991 東京造形大学造形学部デザイン学科卒業
- 2019 小樽・美術家の現在シリーズ テーマ展 風土(市立小樽美術館)  
鈴木吾郎と新鋭作家展〜時を紡いで〜(市立小樽美術館)  
道銀文化財団企画展 CUBE 2019 上嶋秀俊展(らいらっく・ぎゃらりい/札幌)
- 2020 上嶋秀俊展 いのちのかけら(ギャラリーレタラ/札幌)
- 2021 札幌ミュージアムアートフェア(札幌芸術の森美術館)

水のきおく (2015)  
インスタレーション  
アクリル、シナベニヤ



### “水のきおく”によせて

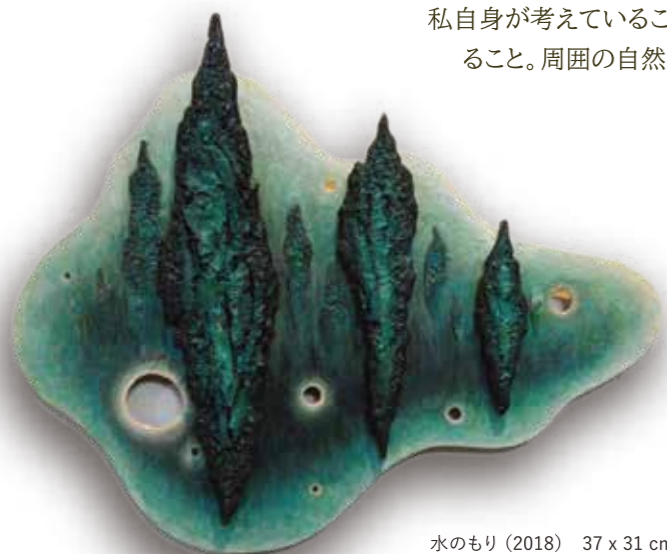
「この作品のジャンルはなんですか？」私の作品を見て、こう質問される方はとても多い。特に今回の作品は野外に設置してあり、数多くのパーツで成り立っているものなので、なおさら疑問に思う方も多いのではと思う。なぜいくつものパーツでなければならないのか？そうした疑問も聞こえてきそうである。

その主な理由は単純に思い描いたものを絵画として描くという方法もあるが私が選んだのは、そうしたフレームの中にあるフィクションではなく、そこからみ出し現実世界に物体として紛れ込ませ、現実世界と虚構を共存させたい、そんなことを考え、こうした作品になっている。

また、こうしたパーツの一つ一つに生命感を持った水滴のようなイメージが感じられるようフォルムや色を与え、それぞれが呼応するように空間に放ちたいという願望がある。

展示の空間については通常、室内の白い壁面に飾ることが主であるが、今回は野外である。作品の支持体となっているのは本物の自然の樹木。私の作品は偽物の創作生命体。当たり前だが本物の自然そのものの強い存在感には負けてしまうものと思っている。ならば、どのようにして作品を成立させるか？

私自身が考えていることは自然に対抗するのではなく自然の中に溶けこむように寄り添い共存すること。周囲の自然と作品が調和し新たな空間を創出させたい、そんなことを願っている。



水のもり (2018) 37 x 31 cm  
アクリル、ラワンベニヤ、  
シナベニヤ、樹皮

### アート展に参加して

作家が自主運営する展覧会や、ギャラリーや美術館が企画する展覧会が一般的な中、朝里まちづくりの会の方々が中心となり、このような展覧会を開いていただいたことに大変感謝しています。特に感じたのは地域の方々の行動力、温かな好意です。そうしたもので今回、とても温かみのある地域へ開かれたイベントとなったと思います。これも、これまで朝里まちづくりの会の方々が取り組んでこられた活動あってこそのもので、強く感じました。経済だけではなく心のまちづくりとして、とても意義ある活動とっております。今回、私も一作家として参加できたことを嬉しく思うと共に、少しでも皆さんの活動の助力になれればと感じました。

また、来場した作家の友人なども地域の方々の運営されている姿や会場全体を流れるアットホームな雰囲気にとっても好感を抱いた人が多かったように思います。今後のさらなる地域活性化を願っております。



◀ 上嶋 秀俊 アーティストトーク動画



佐藤 正行  
アーティスト  
トーク動画



monologue A (2017) ベニヤ、アクリル、油 194 x 194 cm

いつも作品のタイトルに迷います。観るひとの感性に任せる無題(non title)でも良いんじゃないかと思いつきながら、言葉に出来ない内なる想いを絵の具で表現しようともがいてる状態をモノローグ(独白)としました。其々の作者が表現した作品群と朝里川のせせらぎがどう共鳴し合うか楽しみです。

## 佐藤 正行

Sato Masayuki

1949年小樽市生まれ。北海道小樽潮陵高等学校卒業。東京写真専門学校中退。道展会員小川清に師事。

- 1970 小樽市展市長賞
- 2017 全道展佳作賞受賞
- 2019 第87回独立展初出品入選

- 2010~2013 かなた展Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ(市立小樽美術館市民ギャラリー)
- 2017 個展(サロン・ド・宮井/小樽)
- 2018 松田研と2人展(ガンガンギャラリー/小樽)
- 2019 小樽・美術家の現在シリーズ テーマ展 風土(市立小樽美術館)



monologue B (2017) ベニヤ、アクリル、油 194 x 194 cm



痕跡 (2017) フロッタージュ 紙、鉛筆 300 x 100 cm(2作品)





「クリスマスの人形」 伊藤 剛



「ひまわり」 秋本 惇子



「ホッケ」 井上 美江子

新光南あじさい町会の自主企画として、地域住民のアート作品を紹介する「巷の巨匠展」が、現代アート展屋内会場の別室で開催、14作家・17作品が展示されて、好評を博した。



「芙蓉の花」 井上 美江子



題字/金子 富子



「ラスト ホール」 奈良 もな美



「祭りあんどん」 千葉 美恵子



「やよいちゃん」 中 一夫



「手宮公園」 金谷 昭五郎



「たそがれ」 佐々木 孝昭



「利尻富士」 前川 仁



現代アート展案内看板/井畑 元勝



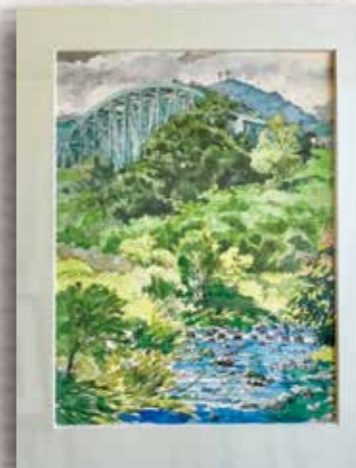
「癒しの庭」 一條 満



「北原白秋の歌」 金子 遠美女



「水墨画」 金子 富子



「初夏の朝里川」 佐々木 稜



「絵手紙」 斉 順子



「石狩灯台」 千葉 美恵子



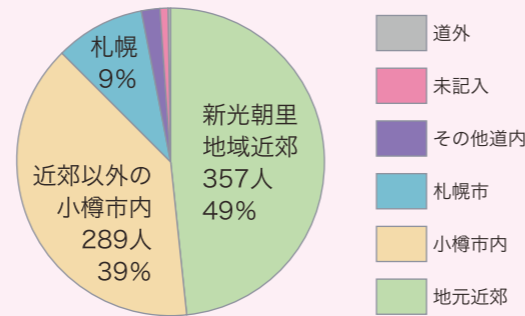
「メッセージ」 高橋 侑吾

## 来場者アンケート集計結果

5月15日から23日の9日間で、屋内展示会場への来場者総数は、737人でした。※屋外会場の来場者数はカウントしていないので含まず。

来場者の居住地内訳は、新光・朝里・望洋台・桜・朝里川温泉などの近隣から357人、それ以外の小樽市内から289人で、札幌市から69人、道内14人、道外1人、未記入7人でした。

以下はアンケートに回答があった230人分の集計結果です。



### Q 1. 年齢

70歳以上	64
60歳代	70
50歳代	50
40歳代	23
30歳代	10
20歳代	4
10歳代	7
10歳未満	1

### Q 2. お住まい

近郊	121
市内	78
札幌市	26
道内	5

### Q 3. 展覧会を何で知ったか

チラシ	101
記事	77
知人	59
SNS	20
その他	15
看板	6
ラジオ	5
テレビ	5
ポスター	1

### Q 4. 展覧会の満足度

大変満足	74
満足	107
普通	41
不満	3
大いに不満	3

### Q 5. 次回も参加したいか

したい	161
わからない	47
しない	10

### Q 6. 今回の現代アート展に対してご意見・ご要望など (120回答から抜粋)

- ・朝里と現代アートがコラボするのは大変嬉しい。何回も開いてほしい。(60歳代/市内)
- ・身近にこんなに素敵な作品を作成されている方が沢山いらっしゃる知り、ますます小樽が好きになりました。開催して下さった朝里のまちづくりの会みなさまに感謝いたします。(60歳代/近郊)
- ・外の開放感ある展示、室内の落ち着いた展示、素晴らしいです。(30歳代/市内)
- ・コロナ禍の中、さわやかなひとときを過ごしました。頑張る力頂きました!!(70歳以上/近郊)
- ・屋外展示が、まわりの景色になじんで良い効果があらわれていたと思いました。(60歳代/札幌市)
- ・地域に密着した美術展はめずらしい、とてもアットホームな温かみを感じます。(70歳以上/市内)
- ・小樽出身ですが、自然の街だとあらためて感動。アートが似合う。典英先生の自然で自由、遊び心に満ちたアート魂をまだまだ期待します。良い展示として定着して欲しい。(60歳代/札幌市)
- ・阿部先生をはじめ地域の芸術家や市民の作品が一堂に展示されることは素晴らしいイベントです。ぜひ来年コロナ禍が収束した後、2回目も開催してほしい。(50歳代/市内)
- ・会場も川沿いのすてきな公園のそばで美術鑑賞に良い環境と思いました。(50歳代/市内)
- ・美術館でなくともありだと思いました。場所的にいい雰囲気癒やされました。(70歳以上/市内)
- ・小樽在住のアーティストの方がけっこういらっしゃることを初めて知りました。(50歳代/近郊)
- ・これからも毎年やってください。花見と一緒にいいです。(50歳代/市内)
- ・緊急事態宣言が発令されて気分が少々落ちていましたが、素敵な作品に触れることで、また頑張ろうという気持ちになりました。何にもとられないのは良いですね。(20歳代/市内)
- ・ここまで手作りの案内看板が目立ってわかりやすく、迷わず来ることが出来た。(40歳代/札幌市)
- ・屋外の作品展示好きです。公園は全体を見渡しても一つの作品かなと感じました。(50歳代/市内)
- ・絵に関しては少しむずかしい。オブジェは気に入りました。(70歳以上/近郊)
- ・ハルカヤマに参加されてた方の作品がまた見られて良かったです。(40歳代/近郊)
- ・こじんまりしていて期待とは違っていた。巷の巨匠展も大々的に展示してほしい。(60歳代/近郊)
- ・気軽にアートに触れられて良かったです。(10歳代/近郊)
- ・版画など、はがきの大きさに購入できるものがほしい。(60歳代/近郊)
- ・コロナ禍の中、散歩を楽しくできるイベントがあって良かったと思います。(60歳代/近郊)
- ・市民と共にあり、とても素敵と思いました。(50歳代/札幌市)
- ・鈴木吾郎さんの彫刻もすばらしい(60歳代/近郊)
- ・桜のきれいな季節の開催で、とてもきれいな空間でアート作品が観られました。(50歳代/近郊)
- ・地域の会館を使用しているのがとても良かったです。(50歳代/市内)
- ・少数の展示ですが、大変内容の濃い展覧会だと思いました。(60歳代/市内)
- ・歩いて桜を見ながら来ました。とても良い気分転換になりました。(50歳代/近郊)
- ・もう少し多くの作品が見たかったです。(60歳代/近郊)
- ・阿部様、ご本人に会えるなんてビックリ!! 素敵なお話ありがとうございました。(50歳代/市内)
- ・作家さんの制作風景がわかるようなパネル展示などがあるとさらによいのでは。(40歳代/市内)
- ・屋外展は夜、ライトアップがあるとステキだろうなと思いました。(40歳代/近郊)
- ・あまりに現代的過ぎてとまどいました。巷の巨匠展の方が分かりやすく感じた。(70歳以上/近郊)
- ・遠くから見ると良い作品、近くで見たい作品、配置をもう少し分かりやすく、作品にそって展示して欲しいと思いました。(70歳以上/近郊)
- ・コロナ禍で難しいですが、ワークショップができるといいですね。(50歳代/近郊)
- ・素敵な企画です。朝里地域の力を強く感じました。ありがとうございました。(50歳代/市内)
- ・屋外展示は日の当たり方や時間帯により見え方がかわると聞き、もっと早くにちがう天気の日にくればよかったと思った(今日はもりの最終日)。チラシやSNSで「何度もみにくるといいよ」と発信すると、楽しみ方がより多角的になると思います。(40歳代/市内)

## 第1回 朝里川 桜咲く 現代アート展 出品作品リスト

作品番号	【屋外展示】 作品名	作家名	制作年	材質・技法	寸法 (cm)	掲載頁
1~3	モシカシタラ (3作品)	阿部 典英	1980	半硬質ウレタン、合成樹脂	340x120x50	13
4~5	SAN・SUNの踊り (2作品)	阿部 典英	1984	ナラ、シロコ、クルミ、黒鉛、ラッカー、他	507x417x178	12
6	KU・MA・SA・NにあるいはKO・MI・CHIへ	阿部 典英	1984	半硬質ウレタン、竹、針金、アクリリック	70x70x180	13
7	MOKUCHUJIN	阿部 典英	1986	シナ、ヤマグワ、黒鉛、メディウム、塗料	270x170x140	13
8	MOKKOKUJIN	阿部 典英	1991	木、黒鉛、メディウム、塗料	130x224x197	12
9	MOKUSEIJIN	阿部 典英	1991	木、黒鉛、メディウム、塗料	110x150x240	13
10	木花の柱	阿部 典英	2021	木、ステンレス	100x100x250	12
11	水のおおく	上嶋 秀俊	2015	アクリル、シナベニヤ、インスタレーション	可変	14
12	monologue A	佐藤 正行	2017	ベニヤ、アクリル、油	194x194	15
13	monologue B	佐藤 正行	2017	ベニヤ、アクリル、油	194x194	15
作品番号	【屋内展示】 作品名	作家名	制作年	材質・技法	寸法 (cm)	掲載頁
14	コート・ダジュールのさざ波	阿部 典英	1978	金属、銅メッキ、ハードクロムメッキ	25x69.5x54.5	11
15	沈黙	阿部 典英	1998	木、黒鉛	16x16x25	11
16	萌芽	阿部 典英	1975頃	真鍮	13x10x30	11
17	囚われたイシ	阿部 典英	1978頃	ステンレス、銅、石	27x18x26	11
18	悲しみ	阿部 典英	2015頃	古木、鉄	23x30x50	11
19	向天の塔	阿部 典英	2000頃	ステンレス、合成塗料	20x20x50	11
20	イシの塔	阿部 典英	1978頃	銅、石	15x14x40	11
21	ダンスをしましょう	阿部 典英	1978頃	鉄、銅、ハードクロムメッキ	15x18x43	11
22	水のもり	上嶋 秀俊	2018	アクリル、ラワンベニヤ、シナベニヤ、樹皮	37x31	14
23~24	痕跡 (2作品)	佐藤 正行	2017	フロタージュ	100x300	15
25	白と黒の景	末永 正子	2017	油絵	163x163	9
26	TOKi	末永 正子	2018	油絵	118x92	9
27	TOKi	末永 正子	2018	油絵	118x92	9
28~33	Ame (6作品)	高野 理栄子	2019-20	コラグラフ版画	39x28	8
34~35	Ame (2作品)	高野 理栄子	2021	コラグラフ版画	7x11	8
36~37	Air (2作品)	森 万喜子	2010	油彩	90x90	10
38~39	Air (2作品)	森 万喜子	2019	アクリルグワッシュ、オイル、パステル	90x30	10
40~44	Air (5作品)	森 万喜子	2019-21	アクリルグワッシュ、オイル、パステル	10x7.5	10

写真左奥より▶

高野理栄子氏、森万喜子氏、星田七重氏、末永正子氏  
手前左より、上嶋秀俊氏、阿部典英氏、佐藤正行氏

▼ 下画像/現代アート展ポスター・チラシ表デザイン



### 「第1回 朝里川 桜咲く 現代アート展」図録

- 発行日 2021年 7月 27日  発行人 永井 邦雄
- 発行所 小樽・朝里のまちづくりの会  
北海道小樽市新光4-1-16 北海道新聞中販売所 Tel. 0134-51-2121
- 編集部 高野 るみ、佐々木 秩
- 撮 影 表紙と裏表紙のアート作品撮影 佐々木 秩  
ドローン撮影 (P.2, 4, 6) 株式会社 KOO  
その他収録写真撮影 高野 るみ